

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	基礎柔道整復学・総論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期 土曜1限目	教室名	第2校舎201
担 当 教 員	澤 卓実	実務経験とその関連資格	専科教員(平成22年～現在に至る)、認定実技審査員(平成29年:整復実技) 講道館柔道初段(平成29年)、附属接骨院(平成19年～平成26年:柔道整復業務に従事)			
《授業科目における学習内容》						
各組織の損傷 骨の損傷 A骨の形態と機能 骨の構造、骨損傷の概説、骨損傷の分類骨折の症状、骨折の合併症、小児骨折・高齢者骨折の特徴、骨折の癒合日数、骨折の治癒過程骨折の予後と骨折の治療に影響を与える因子、治療法(骨折の整復法)、固定法						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験:90% 2. 小テスト:10% 3. グループワーク中の態度・発表:0% 4. 授業態度と参加度:0%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編(改訂第6版:南江堂) 柔道整復学・実技編(改訂第2版:南江堂) 標準整形外科学(改訂第13版:医学書院)						
《授業外における学習方法》						
講義の内容確認の為、次回講義開始後、10分間を前回の講義復習時間とし、教科書、配布プリントの内容を中心に復習し、各項目ごとに小テストを実施。 学習したことを定着させる為、必ず毎回の講義範囲を復習すること。						
《履修に当たっての留意点》						
柔道整復学理論の基礎となる総論は最も重要視され、これからの3年間に大きな影響を与えると考えられます。 まずは骨となにかを構造的に学び、骨折となにかを理論的に学習していきたい。理論は暗記ではなく理屈を考え学んでほしい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごと小テストを解答できる、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道瀨整復学理論編・実技編)、配布プリント	次回講義の予習しておく	
		各コマにおける授業予定	各組織の損傷 骨の損傷 A骨の形態と機能 骨の構造①			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごと小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道瀨整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習しておく	
		各コマにおける授業予定	骨の構造②			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごと小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道瀨整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習しておく	
		各コマにおける授業予定	骨損傷の概説/骨損傷の分類①			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごと小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道瀨整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習しておく	
		各コマにおける授業予定	骨損傷の分類②			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごと小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道瀨整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習しておく	
		各コマにおける授業予定	骨折の症状①			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道瀨整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	骨折の症状②		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道瀨整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	今までの復習①		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道瀨整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	骨折の合併症①		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道瀨整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	骨折の合併症②		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道瀨整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	小児骨折・高齢者骨折の特徴		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道瀨整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	骨折の癒合日数/骨折の治癒過程		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道瀨整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	骨折の予後と骨折の治療に影響を与える因子		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道瀨整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておく
		各コマにおける授業予定	治療法(骨折の整復法)と固定法		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道瀨整復学理論編・実技編)、配布プリント	前期総復習を必ずしておく
		各コマにおける授業予定	今までの復習②		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期講義内容の理解度の確認を行い各項目ごとに理解できている	教科書(柔道瀨整復学理論編・実技編)、配布プリント	後期講義に向けて、理解できていない部分はテキストを用いて再確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	前期講義内容の理解度の確認を行う		